

祝 辞

これより、日本体育大学大学院において、更なる学問の追究を目指し、それぞれの専門分野で新たな一歩を踏み出す皆さん、ご入学、誠におめでとうございませう。ご家族の皆さま、心よりお祝い申し上げます。

本来は、例年通り、東京・世田谷キャンパス記念講堂にて、皆さんの門出を御家族、在学生・教職員で華やかにお祝いする予定でございました。ところが、本年 2 月以降、新型コロナウイルス感染症が国内外にて予期せぬ早さで拡大しており、令和 2 年度入学式の中止を判断せざるを得ない状況となりました。皆さんが、安全で安心できる学究生活を迎えることこそ、我々教職員にとって最大の責務だと考え、人生の大きな節目となる入学式ではありますが、このような心苦しい選択に至りました。なにとぞ、御理解願います。

さて、本年度は、新たに設置した保健医療学研究科運動器柔道整復学専攻及び救急災害医療学専攻博士課程に、4 名の入学生を迎えることができました。保健医療学専攻修士課程とともに、その充実が期待されます。日本体育大学大学院は、この保健医療学研究科の 3 専攻に加え、体育科学研究科体育科学専攻及びコーチング学専攻と教育学研究科実践教科教育学専攻の 3 研究科 6 専攻から構成されています。外国人留学生や社会人学生など、多様なバックボーンを持つ皆さんが集い、さまざまな相乗効果が生み出されているところです。そして、これらの大学院課程には、本学の研究推進の中核的・先導的役割を担い、体育スポーツ学、教育学、保健医療学分野で世界をリードしていくことが求められています。

例えば、いずれの研究も、そのミッションにあるように、「体育スポーツ学、教育学、保健医療学分野における先駆的・実践的研究を推進し、人間の『活力ある身体』について、その真理を探究」するとともに、直接間接に関わらず、「スポーツ文化の深化・発展に努め、オリンピック・パラリンピックムーブメントの精神を実践・推進し、スポーツが有する様々な『力』を活用して、国際平和の実現に寄与する」ことが望まれます。

また、具体的な研究の在り方として、「真摯な基礎研究と課題解決に向けた実践的研究を高い水準で展開し、各専門分野の連携を図りながら、学際的研究に取り組むとともに、その成果を広く社会に発信し、とりわけ、体育・身体活動・スポーツの実践から生じる諸問題について、人文科学・社会科学・自然科学の諸分野から総合的に分析・検討を加え、得られた新たな知見や解決方法を実践現場に還元する双方向的研究活動を推進」していくことが、ビジョンに謳われています。

すべての研究科・専攻をそれぞれ眺め返してみても、そこには必ず、現場での「実践」に基づき、それを意識した「理論」の修得が大きな柱となっていることがわかります。新たに得られた知見を再び体育スポーツや教育、医療の現場に有効に活かしていこうとする、双方向、「実践と理論の一体化」の試みこそが、研究活動の中心であることを再認識させられます。

本学は 1891 年、その母胎である「体育会」の創設に際し、『體育富強之基』（「体育は、富国強兵の基本である」）を建学の精神に掲げ、今日では、「真に豊かで持続可能な社会の実現には、心身ともに健康で、体育スポーツの普及・発展を積極的に推進する人材の育成が不可欠である」、との現代的解釈が加えられています。この建学の精神を具現化すべく、「体育・身体活動・スポーツを通じた健康で豊かな社会・人づくりの実現」に向けた、さまざまな取り組みが展開されています。

将来、研究者・高度専門職業人を目指す皆さんには、こうした本学の基本理念や社会的使命、研究目標、さらには大学院が果たすべき役割を理解してもらい、自身がどんな立場で社会を先導するのか、あるいはすべきか、その指針を立てて励むことを強く希望します。それぞれの研究領域・分野において、真摯に研鑽を積み重ねていってください。皆さんのこれからを大いに期待します。

大切な門出の日を、このようなかたちでお祝いするより他になかったことにつきまして、改めて、お詫びを申し上げます。

令和 2 年 4 月 3 日
日本体育大学
学長 具志堅 幸司